

2014年1月6日

取締役社長 姥貝 卓美 2014年新年挨拶 (抄)

三菱樹脂株式会社

昨年、失われた20年を経て日本の政治構造が大きく変わる年となった。自民党政権はデフレ脱却のための3本の矢（金融政策・財政政策・成長政策）を放ち、四半期毎の実質成長率は前年比でプラスを示しており、政府のGDP成長率見通しもポジティブな内容となっている。昨年末には米国と欧州でも経済政策に大きな変化が出てきた。私たちの事業環境においても確実に底をヒットしたことは間違いない。三菱樹脂インフラテック社の事業（土木・建築・設備機器等）ではフォローの風が吹き始めて来た。油断は禁物だが、事業構造改革に対する従業員皆さんの努力が、復活の手ごたえに変わって来ている。

こうした経済環境を踏まえ、私たちは成長戦略を遂行し、結果を出さなくてはならない。今年、アルミ樹脂複合板の欧州工場や食品包装用高機能フィルムの増設など、幾つかの新工場、新ラインが立ち上がる。いずれも早期に稼働率を高めて、収益に貢献させたい。事業を大きくするには投資を決断することも必要である。成長市場でマーケットを拡げること、国内外で新市場を開拓することにも、引続き挑戦していかなければならない。今年も、ある時はフォローの風、ある時はアゲインストの風が吹くだろう。しかし、各SBU（ストラジテック・ビジネス・ユニット）や関係会社が、自分達の事業領域でしっかりと先を予測し、準備を怠ることなく事業運営に注力して、結果を出していけば、強い三菱樹脂グループが実現出来るはずだ。

三菱ケミカルホールディングスグループにおいて、三菱樹脂はサプライチェーンの川下に近い部分で事業を行っており、市場からの要求や時代の流れを敏感に感じ、情報に触れる機会に恵まれている。この領域で仕事をする誇りを胸に、しっかりと事業を運営し、成長戦略を実行していくことが当社の存在感を高めることにつながる。ミッション・コーディネーターとしては、三菱化学の材料設計力と三菱樹脂の加工技術・開発力との「協奏」を加速させていく事が役割である。今年もしっかりと協奏活動を牽引していきたい。

人間は目標を達成したとき、一段上の頂から新しい風景（世界）を見ることができ、そして、新たな知恵が生まれてくる。一人ひとりが、昨年の成果を基盤にして、足場をもう一段高くしていく事が求められる。中期経営計画の最終年度（2015年度）の目標を達成するためには、今年どんな準備をし、新たなテーマに挑戦して行くかが重要である。その結果が2015年度に具現化する。準備の無いところにビッグ・チャンスは絶対に訪れない。2014年のキーワードは「新しい市場へ飛び込み、新たな需要を取り込んでいく年」だ。今年の干支は「甲午」。「夢に向かって伸び、発展し、前進する」というこの干支の意味を、皆さんと一緒にビジネスの世界で実現していこう。

以上

本件に関するお問合せ先 (株) 三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室 電話：03-6748-7140
